



過去の経歴

- 平成2年 ● 入省
- 平成8年 ● 在大韓民国日本国大使館
二等書記官
- 平成11年 ● 秋田県商工労働部
職業安定課長
- 平成12年 ● 秋田労働局職業安定部長
- 平成15年 ● 渋谷公共職業安定所長
- 平成21年 ● 神奈川労働局職業安定部長
- 平成23年 ● 北海道労働局職業安定部長
- 平成25年 ● 職業安定局首席職業指導官室
次席職業指導官
- 平成27年 ● 職業能力開発局能力開発課
企画官
- 平成29年 ● 職業能力開発局能力開発課
訓練企画室長
- 平成29年 ● 人材開発統括官付
キャリア形成支援室長
- 令和元年 ● 職業安定局首席職業指導官室
首席職業指導官
- 令和3年 ● 香川労働局長
- 令和5年 ● 職業安定局雇用政策課労働市場
情報整備推進企画準備室長
- 令和5年 ● 人材開発統括官付人材開発
政策担当参事官

まつ せ たかひろ
松瀬 貴裕 人材開発統括官付 参事官
(人材開発政策担当)

キャリアストーリー

job tag(職業情報提供サイト)の開発

job tagの開発を担当しました。与えられた時間はわずか1年、一番苦労したのは約500の職業紹介動画をすべて完成させることでした。受託業者だけでは撮影取材を受けてくれる会社を集めることができず、私もツテを頼りながらいろんな会社をお願いして回りました。建設関係で撮影を受けていただけそうなの(やっと見つけた)会社に何うために行田市まで行ったときのこと。駅にはタクシーがなく会社まで4km以上歩くことになりました。会社に着いた時には全身滝のような汗でずぶ濡れ状態。私を見た社長さん、少々驚いた様子でしたが、説明は聞かずに「君の話は引き受けたよ」と言ってくれました。暖かい人情に触れて、疲れがいつぱんに吹っ飛びましたね。

Q1 厚生労働省の人間科学職について教えてください。

厚生労働行政は、医療・福祉・雇用・労働・年金など国民生活のあらゆる場面に関わる非常に幅の広い仕事です。人間科学職は、主に「人と仕事」に関わる領域、例えば、

- ①第一線機関であるハローワークの業務指導、
- ②若年者、障害者、高齢者、生活困窮者等の就職支援策の企画立案、
- ③職業訓練施策・キャリア形成支援施策の企画立案、

等の業務に携わります。それ以外の本省部局で活躍する場面も増えてきています。労働局の管理職、関係機関の研究職、在外公館や国際機関の職員として活躍する人もいます。



Q2 人間科学職の仕事の一つに「政策の企画立案」ということがありますが、どのように行われるのですか。

政策を作るプロセスを簡単に言うと、

- ①世の中にどのようなニーズがあるかをキャッチし、
- ②それを具体的な形(法律、政省令及び通達など)にしていく、ということです。

人間科学職であれば「人と仕事」に対する幅広い興味関心を活かしてニーズキャッチに力を発揮していただけると期待しています。一方、具体的な形の「作り方」は、入省後、実際に仕事をしながら学んでいただくことになります。

Q3 人間科学職の魅力を教えてください。

人間科学職のキャリアは多様性があって面白いと思います。本省で得意な政策分野を見だしていく人もいれば、国際派になっていく人、研究職に進む人など、活躍の場は様々に広がっています。入省直後は自分の適性が分からなくても、「人と仕事」に関する領域を中心にキャリアを重ねていくうちに、自身の興味関心に合ったものを見つけいていけるのが、人間科学職の面白いところではないかと思います。



▲WAPES(世界公共雇用サービス協会)での講演(カンボジアにて)



▲能登半島地震で被災した石川ポリテク短大にて(西田昭二総務大臣政務官の随行中)

受験生へのメッセージ

人間科学職は、本省で政策の企画立案に携わりながらも、他の職種に比べて地方に出る機会が多く、「総合職」と同時に現場感覚をもった「専門家」でもあるといえます。また、活躍するフィールドも多様に広がっています。いろんなところに行って、いろんな人と会って、様々な価値観に触れてみたい、という好奇心旺盛な方をお待ちしています。